



松本市図書館だより

平成26年3月1日発行 第12号



編集・発行 松本市図書館
〒390-0861
松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電話/0263(32)0099

あなたのオススメ本

今回の特集記事では、「図書館だより」に対するアンケートで募った、利用者の方のオススメ本をご紹介します！

『ぶたぶた』 矢崎 存美／著 広済堂出版【場所:Fヤサ 所蔵館:中央・中山】

矢崎ぶたぶた。主人公。年齢推定30代後半～50代前半というところか。身長は30cmくらい。ピンク色のブタのぬいぐるみである。車の運転もすれば、仕事もする。家族もちろん。かわいい奥さんと女の子2人。シリーズになっていて、その本ごとに仕事も様々。でも、きちんと相手の話を聞いてくれるし、相談にも乗ってくれて、解決の糸口を探してくれる。そんなぶたぶたさんに読んでいる自分が一番癒されている。ぶたぶたさん普通に食事をするのだが、それが一番のミステリー……。 (と、登場人物も思うのだ。) (女性の方)



『ファザー・クリスマス』 J.R.R.トールキン／文 評論社

【場所:993ト 所蔵館:中央・南部・西部・本郷・島内・空港】

毎年サンタクロースから手紙をもらえるなんて、すごくワクワクしますよね。北の国に住むサンタクロースは、あまりの寒さに手が震えて文字がギザギザになっていたりします。サンタクロースの助手のシロクマがひきおこす騒動もおもしろい。そのうちゴブリンもでてきたりして、指輪物語を彷彿とさせる。シロクマも手紙に太い文字で言葉を添えてあったりして、なかなか芸が細かい。しかも手紙だけじゃなくて、イラストまである。こんな手紙を毎年もらっていた子ども達はさぞかしクリスマスが来るのが楽しみだったのではないかと想像します。また、トールキンの子供達にたいする深い愛情が感じられます。(利用者の方)



『捕るか護るか？クジラの問題』 山川 徹／著 技術評論社【場所:664ヤ 所蔵館:中央・本郷・梓川】

最近、ちょっと静かですが、近年の大きな国際問題『捕鯨』について、どうして国際的な批判を受けてまでクジラを捕るのか。江戸時代末期、どうして外国船が日本近海に来たのでしょうか？どうして、ペリーは日本の開国を求めたのでしょうか？日本の立場がちょっと理解できる本です。この機会にどうぞ！！(56歳男性の方)



『最初の質問』 長田 弘／詩 講談社

【場所:絵本 所蔵館:中央・南部・あがたの森・寿台・本郷・中山・梓川】

語りかける様な長田弘さんの詩が、いせひでこさんの優しい絵と共につづられていきます。私のお気に入り「これだけはしないと、心に決めていることがありますか。」という部分。「何をしたいか」は少し考えれば答がすぐ見つかるけど、「これだけはしない、これだけは言わない」という問いには、「どんな自分になりたいか」という、今より未来の自分を想像しないと、答が見えない気がするから。一歩ふみ出す前のじっくりとした時間におすすめてです。(51歳女性の方)



アンケートにご協力いただき、ありがとうございました！

一般図書貸出本ベスト5

平成25年1月1日～12月31日受付

- 1位 『神様のカルテ3』 貸出415回
夏川 草介／著、小学館
- 2位 『神様のカルテ2』 貸出379回
夏川 草介／著、小学館

- 3位 『1Q84 BOOK1』 貸出364回
村上 春樹／著、新潮社

- 4位 『マスカレード・ホテル』 貸出328回
東野 圭吾／著、集英社

- 5位 『禁断の魔術』 貸出313回 東野 圭吾／著、文藝春秋



各館紹介 ～本郷図書館～

本郷図書館は平成11年4月に市内5館目の分館として開館しました。蔵書冊数は、一般書 19,000 冊、児童書 14,000 冊です。本郷支所・本郷公民館と併設で、近くには小学校や保育園、児童センターなどがあり、地域の皆様が気軽に立ち寄れる場所となっています。月に一回、地域の方々にもご参加いただきおはなし会を行っています。また館内は絨毯敷きになっていますので、ゆっくりと落ち着いて本を選んでいただけます。

浅間温泉が近くにあることから、全国の温泉ガイドや小説・エッセイなど、温泉に関連した本を集めたコーナーを常設しています。

すぐ近くに山があるので、館内から四季折々の景色が楽しめます。また施設の周りは桜の木が立ち並び、春になると周辺の景色が桜色に染まります。暖かくなったら外のテラスもご利用いただけます。本を読みながらお花見もできますよ。ぜひお気軽にお出かけください！



予約本ベスト5

平成26年1月15日～
平成26年2月15日受付

一般書

- 1位 『ペテロの葬列』
宮部 みゆき／著、集英社
- 2位 『昭和の犬』
姫野 カオルコ／著、幻冬舎
- 3位 『恋歌』
朝井 まかて／著、講談社
- 4位 『幸福な生活』
百田 尚樹／著、太田出版
- 『ビブリア古書堂の事件手帖 5』
三上 延／著、KADOKAWA

児童書

- 1位 『パンダ銭湯』
tupera tupera／さく、絵本館
- 2位 『ちいさなちいさな王様』
アクセル・ハッケ／作、講談社
- 3位 『かいけつゾロリのまほうのランプ〜ッ』
原 ゆたか／作・絵、ポプラ社
- 『世界の危険生物』
学研教育出版
- 『トリックアートおばけやしき』
北岡 明佳／監修、あかね書房

図書館に聞いてみよう！

【今月の事例】



明治、大正時代当時の物価は調べられるか？

Q. 明治～昭和20年代のコーヒーの値段が知りたい。

- A. ①ア. 『値段史年表 明治・大正・昭和』
(朝日新聞社、1988年)
イ. 『値段の明治大正昭和風俗史』
(朝日新聞社出版局、1981年)

以上の2冊で調べたところ、明治19年から昭和62年までのコーヒーの1杯の価格が表形式で記載されました。明治19年：3銭、昭和20年：5円（喫茶店〈東京〉で飲むコーヒー1杯の平均値段。）

②また、『黎明期における日本珈琲店史』（いなほ書房、2003年）を調べたところ、昭和までの価格の変遷は分かりませんでした。明治時代の喫茶店では出されていたコーヒー1杯の価格の記述がありました。

③さらに、明治から昭和の貨幣価値を現在価格に換算するために『明治以降卸売物価指数統計』（日本銀行、1987年）で確認しました。

アの資料は、「コーヒー」の他に「直木賞・芥川賞」「山小屋宿泊料金」「総理大臣の初任給」など280種類のものや、サービスの値段の変遷が分かり、とても興味深い内容となっています。

図書館には、調べ物のお手伝いをするサービスがあります。本についての問い合わせ以外にも、身近な疑問についてもお調べしていますので、お気軽にご利用ください。

編集後記

2月は、度重なる雪かきで疲れきってしまったのではないのでしょうか。お疲れさまでした。骨休めに、本を一冊いかがですか。いつも自分が読んでいたとは違うオススメ本を読んでみるのも、新たな発見があったりして面白いかもしれません。

